

秋 田 市

市内遺跡確認調査報告書

2005. 3 秋田市教育委員会

序

本書は、平成16年度に実施した市内遺跡確認調査の報告書です。

埋蔵文化財は、地域の歴史を解明する重要な資料であり、貴重な文化遺産として保護し、未来へ引き継いでいかなくてはなりません。今年度、市町合併に伴い、秋田市には、503箇所の埋蔵文化財包蔵地が登録されることとなりました。

今年度の調査では、「湊城跡」の範囲確認調査を行い、近世土崎湊の陶磁器等が出土し、中世湊城の内堀跡の推定位置が確認されました。また、雄和地区において、新発見の「小谷地遺跡」を確認しました。

このように、道路建設や宅地開発などの開発事業に対し、埋蔵文化財の保護が急務となっておりますが、遺跡確認調査は、それら各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るための基礎となるものです。

本報告書は、その調査結果をまとめたものであり、文化財保護活動の啓発と普及、そして学術研究のために活用していただければ幸いに存じます。

刊行にあたり、調査にご協力いただきました関係各位の皆様に感謝申し上げるとともに、今後とも、埋蔵文化財の保護につきまして、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

平成17年3月

秋田市教育委員会

教育長 飯塚 明

目 次

例 言

凡 例

調査体制

第1章 事業の概要 1

第2章 調査の記録

1 下新城地区道路建設工事予定地	3
2 下新城地区無線基地局建設工事予定地	4
3 金足地区店舗建設工事予定地	6
4 走崎遺跡（下北手地区道路建設工事予定地）	8
5 寺内高野地区無線基地局建設工事予定地	10
6 寺内後城地区無線基地局建設工事予定地	12
7 渕城跡（土崎地区道路建設工事予定地）	14
8 川元むつみ町地区宅地造成工事予定地	20
9 下新城地区無線基地局建設工事予定地	22
10 飯島地区道路建設工事予定地	24
11 雄和銅屋地区圃場整備事業予定地（小谷地遺跡）	26
12 嶋下り遺跡（下新城地区道路建設工事予定地）	30
13 山内地区無線基地局建設工事予定地	32
第3章 捕 遺	
1 平成11年度 熊野田遺跡範囲確認調査に伴う出土遺物報告	34

例　　言

- 1 本報告書は、市内に所在する遺跡及び遺跡存在可能性地において、開発事業などに伴って実施された平成16年度遺跡確認調査報告書である。また補遺として、平成11年度実施の熊野田遺跡範囲確認調査に伴う出土遺物報告を掲載した。
- 2 確認調査は、秋田市教育委員会が調査主体となり、平成16年度国庫補助金並びに県費補助金の交付を受けて行った。
- 3 市内の確認調査については、秋田市教育委員会文化振興室が担当した。
- 4 本書の執筆は、各調査担当者が行い、神田が編集した。なお、第3章 補遺の実測図（第20図）は安田忠市（秋田城跡調査事務所）、神田、小野が行った。
- 5 出土遺物及び記録類は、秋田市教育委員会が一括して保管する。
- 6 調査にあたっては、文化庁記念物課、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室よりご指導をいただいた。

凡　　例

- 1 挿図の調査位置図については、主として秋田市都市計画図を使用し、一部事業関係で作成した図面を使用した。
- 2 插図の縮尺と方位は不統一であり、各図ごとに縮尺・スケールと方位を示した。図中の方位は真北を示している。
- 3 遺物の実測図の縮尺は1／3とした。
- 4 插図の中には下記の記号を用いた。

トレンチ—T （調査地第1号トレンチについては1 Tと表記）

調査体制

調査担当者 秋田市教育委員会

調査体制 秋田市教育委員会文化振興室

　　文化振興室 室長 小松 正夫

　　室長補佐 松尾 由美子

　　文化財担当

　　主席主査 西谷 隆（調査担当）

　　主事 進藤 靖（調査担当）

　　主事 中川 宏行（調査担当）

　　主事 神田 和彦（調査担当）

　　主事 小野 隆志（調査担当）

調査作業員 鈴木銀一、齐藤健三、鈴木長司、三浦竹治、佐々木昇三、三浦吉司、

三浦千枝子、宮田トキ子

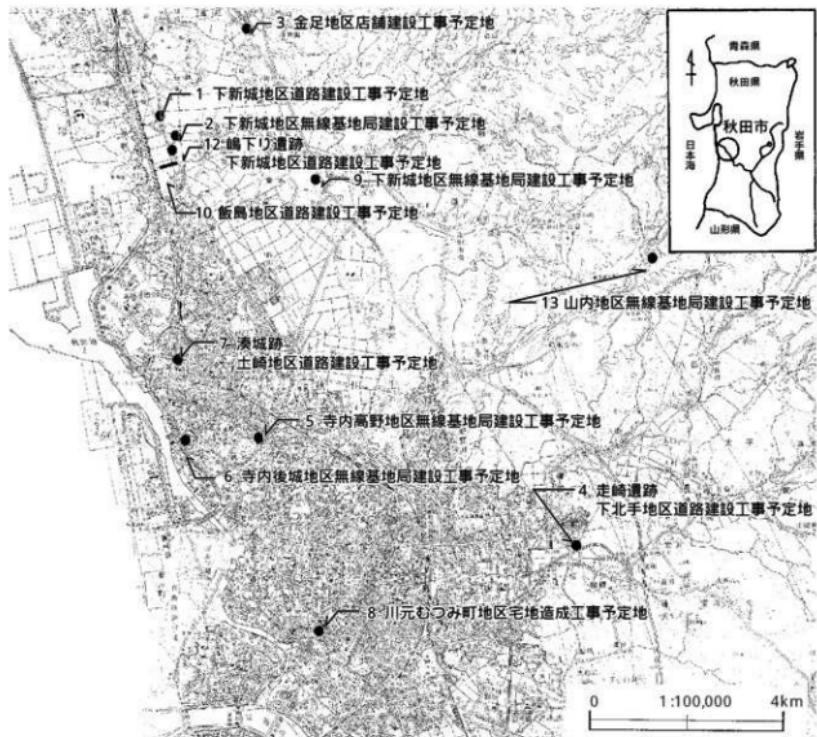
第1章 事業の概要

秋田市は、秋田県のほぼ中央部、日本海に面する秋田平野に位置している。市内には、旧石器時代から近世までの遺跡が存在しており、本市では、埋蔵文化財の保護と開発事業に適切に対処するため、昭和61年から63年にかけて、国庫補助事業として市内全域の分布調査を実施している。その後の遺跡の追加、および平成17年1月11日付けによる秋田市・河辺町・雄和町の市町合併に伴い、503箇所の埋蔵文化財包蔵地が登録されている。

平成16年度は、周知の埋蔵文化財包蔵地または遺跡存在可能性地における公共事業や民間の開発事業などについて、事前の事業照会と協議、分布調査による確認を経て、詳細な把握が必要な下記の箇所について試掘調査を実施した。

試掘調査実施一覧表

No.	事業名・遺跡名	所在地	事業主体	事業概要
1	下新城地区道路建設工事	下新城中野字前谷地	秋田市道路建設課	道路建設
2	下新城地区無線基地局建設工事	下新城笠岡字和田尻	KDDI 株式会社	無線基地局建設
3	金足地区店舗建設工事	金足片田字横閑	株式会社 ローソン	店舗建設
4	下北手地区道路建設工事 ・走崎遺跡	下北手松崎字走崎	秋田市道路建設課	道路建設
5	寺内高野地区無線基地局建設工事	寺内高野	ボーダフォン 株式会社	無線基地局建設
6	寺内後城地区無線基地局建設工事	寺内後城	KDDI 株式会社	無線基地局建設
7	土崎地区道路建設工事 ・湊城跡	土崎港中央三丁目	秋田市道路建設課	道路建設
8	川元むつみ町地区宅地造成工事	川元むつみ町	三光不動産 株式会社	宅地造成
9	下新城地区無線基地局建設工事	下新城岩城字楓ノ木	KDDI 株式会社	無線基地局建設
10	飯島地区道路建設工事	飯島字芋田	秋田市道路建設課	道路建設
11	雄和鋼屋地区圃場整備事業	雄和鋼屋相川	秋田県地域振興局	圃場整備事業
12	下新城地区道路建設工事 ・鳴下り遺跡	下新城笠岡字鳴下り	秋田市道路建設課	道路建設
13	山内地区無線基地局建設工事	山内字丸木橋	株式会社 エヌ・ティ・ティ・コムウェル	無線基地局建設



秋田地区



雄和地区

第1図 市内調査位置図

第2章 調査の記録

1 下新城地区道路建設工事予定地（遺跡存在可能性地）

1 調査地 秋田市下新城中野字前谷地地内

2 調査期日 平成16年4月22日

3 調査面積 59m²（調査対象面積 890.55m²）

4 起因事業 道路建設工事

5 調査に至る経緯

秋田市建設部道路建設課は、下新城中野字前谷地に道路建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成16年4月8日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6 立地と現況

調査地は秋田市の北側、秋田平野北部（下新城低地）を東から西に流れる新城川中流域北側の沖積地で、標高約9.5mの地点である。現況は畑地及び水田である。周辺には羽黒神社宝鏡印塔（中世）が所在することから、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅2mのトレンチを4本設定して、バックホーによって試掘し遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の基本層序は下記のとおりである。

第Ⅰ層 暗褐色砂（表土、10~25cm）

第Ⅱ層 暗褐色砂質土（造成土、20~35cm）

第Ⅲ層 明黄褐色砂（地山飛砂層、100cm以上）

第3・4号トレンチでは、現況は水田であり、水田造成土が第Ⅱ層下に約80cm堆積しており、その下から植物遺体層及び暗褐色砂（地山飛砂層）が確認された。

b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

調査地の旧地形は一部湿地であり、遺構・遺物は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：中川・神田）



第2図 下新城地区道路建設工事予定地調査位置図

2 下新城地区無線基地局建設工事予定地（遺跡存在可能性地）

- 1 調査地 秋田市下新城笠岡字和田尻55番1
- 2 調査期日 平成16年5月25日
- 3 調査面積 35.7m²（調査対象面積 496.24m²）
- 4 起因事業 無線基地局建設工事
- 5 調査に至る経緯

KDDI株式会社は、下新城笠岡字和田尻に無線基地局建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成16年4月21日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6 立地と現況

調査地は秋田市の北側、秋田平野北部（下新城低地）を東から西に流れる新城川中流域北側の沖積地で、標高約10mの地点である。現況は畑地及び水田である。周辺には、下新城低地に島下り遺跡（繩文・奈良・平安）、佐戸反遺跡（平安）、乳倉遺跡（奈良・平安）、雀島遺跡（奈良・平安）、芋田遺跡（平安）、羽黒神社宝篋印塔（中世）が島状に点在していることから、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅1.5～1.8mのトレーナーを3本設定して、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の基本層序は下記のとおりである。

- 第Ⅰ層 褐色土（表土、20cm）
- 第Ⅱ層 灰褐色土（造成土、20～30cm）
- 第Ⅲ層 褐灰色土（造成土、25～40cm）
- 第Ⅳ層 植物遺体の混じる褐色土（造成土、25cm）
- 第Ⅴ層 植物遺体層（自然堆積層、10～15cm）
- 第VI層 植物遺体の混じる青灰色粘土（グライ化した地山ローム層、5cm）

第Ⅱ～IV層は、現在の水田を造成した造成土である。調査地の旧地形は湿地である。

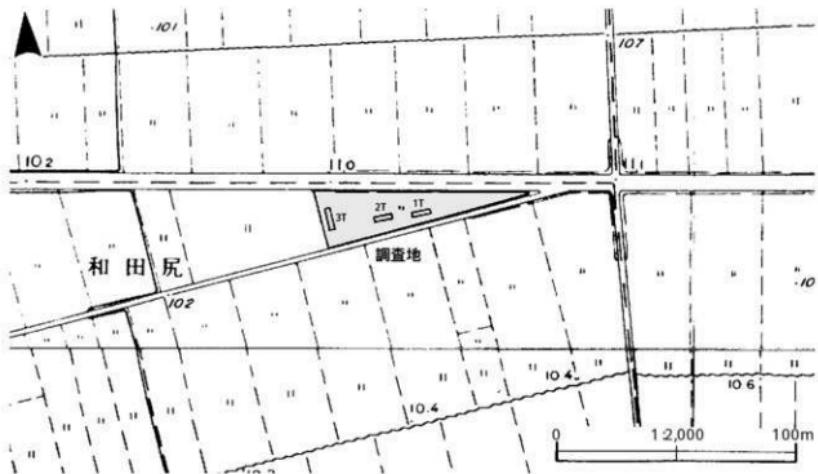
b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

調査地の旧地形は湿地であり、遺構・遺物は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：中川・神田）



第3図 下新城地区無線基地局建設工事予定地調査位置図



調査地全景(東→)



第3号トレンチ調査状況(南→)

写真1

3 金足地区店舗建設工事予定地（遺跡存在可能性地）

- 1 調査地 秋田市金足片田字横関186-1 の内ほか
- 2 調査期日 平成16年6月3日
- 3 調査面積 84m²（調査対象面積 1,997.88m²）
- 4 起因事業 店舗建設工事
- 5 調査に至る経緯

株式会社ローソンは、金足片田字横関に店舗建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成16年5月24日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6 立地と現況

調査地は秋田市の北側、秋田平野北部を東から北西に流れる馬踏川中流域の沖積地で、標高約8mの地点である。現況は畑地及び水田である。周辺には、南西側近接地に梵天長根遺跡（縄文・弥生）が所在していることから、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅2mのトレンチを4本設定して、バックホーによって試掘し遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の基本層序は下記のとおりである。

- 第Ⅰ層 褐色土（表土、15~30cm）
- 第Ⅱ層 灰褐色土（造成土、20~30cm）
- 第Ⅲ層 暗灰色土（造成土、25~50cm）
- 第Ⅳ層 植物遺体の混じる青灰色粘土（グライ化したローム層）

第Ⅱ~Ⅲ層は、現在の畑地及び水田を造成した造成土である。第2号トレンチにおいては、第Ⅱ層が黄褐色土の混じる灰褐色土(30cm)の第Ⅱa層と、砂利の混じる灰褐色土(20cm)の第Ⅱb層に細分される。また、第3号トレンチにおいては、第Ⅲ層の下に第Ⅲ'層として植物遺体層の混じる暗灰色土(30cm)、第Ⅲ''層として植物遺体層(5~30cm)が認められる。調査地の旧地形は湿地となっており、南側から北側へ傾斜している。また、第3号トレンチ北側において、沢状の落ち込みが認められた。

b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

調査地の旧地形は湿地であり、遺構・遺物は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：中川・神田）



第4図 金足地区店舗建設工事予定地調査位置図



写真2

4 走崎遺跡（下北手地区道路建設工事予定地）

- 1 調査地 秋田市下北手松崎字走崎地内
- 2 調査期日 平成16年8月3日・5日
- 3 調査面積 32.55m²（調査対象面積 1,189.86m²）
- 4 起因事業 道路建設工事
- 5 調査に至る経緯

秋田市建設部道路建設課は、走崎遺跡が所在する下北手松崎字走崎に、道路建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成16年7月9日付で秋田市教育委員会に、埋蔵文化財事前調査の依頼および土木工事等のための発掘に関する届出（文化財保護法第57条2第1項）があった。これを受け秋田市教育委員会は、分布調査による現況確認と試掘による範囲確認調査を実施した。

6 立地と現況

調査地は秋田市の東部、秋田平野東部を東から西に流れる太平川左岸の丘陵地で、標高約16mの地点である。現況は原野である。調査地は、走崎遺跡（縄文）内に所在する。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅1.5mのトレンチを6本設定して、手掘りにより試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の基本層序は下記のとおりである。

第Ⅰ層 黒褐色土（表土、10~15cm）

第Ⅱ層 白色粘土塊の混じる明黄褐色粘質土（地山、30cm以上）

調査地は急傾斜であるため表土層の堆積が少なく、第Ⅱ層の地山もローム層の堆積がほとんど認められず、水性堆積によるものと考えられる。

b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

調査地からは遺構・遺物は発見されず、調査地内における発掘調査は必要ないと判断した。

（調査担当：神田・小野）



第5図 走崎遺跡調査位置図



調査地全景（南→）



第1号トレンチ調査状況（東→）

写真 3

5 寺内高野地区無線基地局建設工事予定地（遺跡存在可能性地）

- 1 調査地 秋田市寺内高野63番1
- 2 調査期日 平成16年9月10日
- 3 調査面積 26m²（調査対象面積 94m²）
- 4 起因事業 無線基地局建設工事
- 5 調査に至る経緯

ボーダーフォン株式会社は、寺内高野に無線基地局建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成16年8月26日付けで埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6 立地と現況

工事予定地は秋田市の北西部、高清水丘陵の北東端で、標高約25mの地点である。現況は、原野である。周辺には、南側に国指定史跡「秋田城跡」が隣接し、北西に高野遺跡（奈良・平安）が所在していることから、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅1.3mのトレンチを2本設定し、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の層序は下記のとおりである。

- 第Ⅰ層 黒色土（表土、約10cm）
- 第Ⅱ層 小礫やコンクリートブロックの混じる黄褐色粘土（造成土、100cm）
- 第Ⅲ層 ビニールやガラス片の混じる黒褐色土（造成土、約20cm）
- 第Ⅳ層 暗黄褐色砂質土（旧表土、約15cm）
- 第Ⅴ層 浅黄色砂質土（地山飛砂層、100cm）
- 第Ⅵ層 黄褐色砂質土（沢の堆積層、10cm）
- 第Ⅶ層 黑褐色砂質土（沢の堆積層、50cm）

調査地は北側に傾斜している斜面で、旧地形は沢状地形の上部にあたることが確認された。そして、調査地北側（太平自動車学校）の土取りに伴って擁壁を築いた際に、残土によって造成が行われたことから、周辺の地形が現在のようになったと考えられる。

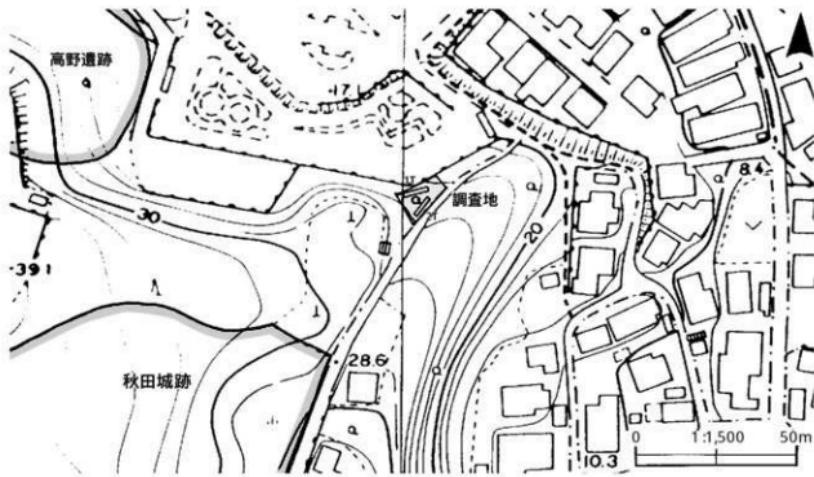
b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

調査地の旧地形は沢状地形の上部であり、遺構・遺物は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：安田・進藤）



第6図 寺内高野地区無線基地局建設工事予定地調査位置図



調査地全景（北→）



第1号トレンチ調査状況（東→）

写真4

6 寺内後城地区無線基地局建設工事予定地（遺跡存在可能性地）

- 1 調査地 秋田市寺内後城75番
- 2 調査期日 平成16年9月21日
- 3 調査面積 30m²（調査対象面積 270m²）
- 4 起因事業 無線基地局建設工事
- 5 調査に至る経緯

KDDI株式会社は、寺内後城に無線基地局建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成16年9月8日付けで埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6 立地と現況

工事予定地は秋田市の北西部で、高清水丘陵の北西端に位置し、標高約18mの地点である。現況は、宅地である。周辺には、東側隣接地に後城遺跡（奈良・平安・中世）、国指定史跡「秋田城跡」が所在していることから、遺跡が存在する可能性のある地域である。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅1.5mのトレーナーを2本設定し、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の層序は下記のとおりである。

- 第Ⅰ層 黒色土もしくは砂利（表土、10cm）
- 第Ⅱ層 暗褐色砂質土（造成土、40cm）
- 第Ⅲ層 黄褐色粘土と黒色土の混じる暗褐色砂質土（造成土、30cm）
- 第Ⅳ層 浅黄色砂質土（地山飛砂層、50cm以上）

第1号トレーナーと第2号トレーナーの間は、小さな沢状の落ち込みが入っていたと考えられ、西側にコンクリートブロックなどが埋められていた。

b 検出遺構と出土遺物

第II層から須恵器壺破片2点と土師器甕破片1点が出土したが、遺物包含層は確認されなかった。遺構の発見はなかった。

c 所見

調査地の旧地形は、東から西に向かって傾斜している丘陵縁辺であり、遺構・遺物包含層は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：安田・神田）



第7図 寺内後城地区無線基地局建設工事予定地調査位置図



調査地全景（北東→）



第1号トレンチ調査状況（東→）

写真 5

7 渋城跡（土崎地区道路建設工事予定地）

- 1 調査地 秋田市土崎港中央三丁目154-4
- 2 調査期日 平成16年11月8日～9日
- 3 調査面積 45.77m²（調査対象面積 518.23m²）
- 4 起因事業 道路建設工事
- 5 調査に至る経緯

秋田市建設部道路建設課は、渋城跡が所在する秋田市土崎港中央三丁目に道路建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成16年10月25日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。これを受けた秋田市教育委員会は、分布調査による現況確認と試掘による範囲確認調査を実施した。

6 立地と現況

調査地は秋田市の北部、旧雄物川右岸に位置する渋城跡（中世）内で、標高約5mの地点である。現況は宅地である。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅2mのトレンチを3本設定して、バックホーによって試掘し遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の基本層序は下記のとおりである。（第10図参照）

- 第I層 棕褐色土（表土、40～55cm）
- 第II層 棕褐色砂（造成土、30～40cm）
- 第III層 炭化物が多く混じる褐色土（焼土層、10～20cm）
- 第IV層 青灰色粘土（近世造成土、8cm）
- 第V層 暗褐色土（近世造成土、20～40cm）
- 第VI層 暗青灰色土（近世造成土、10～30cm）
- 第VII層 青灰色粘土の混じる青灰色砂（近世造成土、10～15cm）
- 第VIII層 植物遺体の混じる青灰色粘土（地山、10cm以上）

第2号トレンチの堀跡では、第VII層下に、第VII層砂礫の混じる暗褐色砂（近世造成土、20cm以上）が堆積している。また第3号トレンチでは、第VII層以下は、第IX層 黒褐色砂（近世堆積土、15cm）、第X層 暗褐色砂（近世堆積土、25cm）、第XI層 植物遺体の混じる褐色砂（近世堆積土、70cm）が堆積している。

第1号トレンチでは第VI層から、第2号トレンチでは第VII層から湧水が認められた。第3号トレンチでは、第X層下部から湧水が認められた。第2号トレンチでは、第VII層に地山が確認されたが、第3号トレンチでは第VII層が認められず、近世の堆積土が認められた。

b 検出遺構と出土遺物

〔遺構〕（第11図～13図）

第1号トレンチからは、ピット（柱穴）1基が確認された。検出面は第V層上面である。第2号トレンチからは第V層上面より、杭列4基、溝跡1基が確認された。また、第XI層上面より堀跡、土坑1基、ピット2基が確認された。堀跡は、出土層位・位置から中世渋城の内堀と考えられる。第3号トレンチ

では第V層上面より、井戸2基が確認された。また、第X層上面から土坑1基、ピット2基が確認された。

〔遺物〕

第II層からは、西洋コバルトを用いた陶磁器等が出土したことから、明治期以降の造成土であることが確認された。第III層は、前後層の出土遺物の検討から、江戸後期の大火灾のいずれかのものであり、慶応3年（1867年）の大火灾である可能性が高いと考えられる。第IV層以下からは、近世陶磁器が多量に出土した。陶磁器類は、肥前系のものが主体となっており、碗・皿・播鉢等が出土している。時期としては、肥前I～IV期のものである。

肥前系陶磁器の年代より各層の堆積年代をまとめると下記のとおりとなる。

- ・第V層 肥前IV期（1690～1780年代）
- ・第VI層 肥前III～IV期（1650～1780年代）
- ・第VII層 肥前III期（1650～1690年代）
- ・第VII'層 肥前III期（1650～1690年代）
- ・第IX層 肥前II期（1600～1650年代）
- ・第X層 肥前I～II期（1580～1650年代）
- ・第XI層 肥前I期（1580～1600年代）

第IV層からは遺物が出土しなかったが、江戸後期の造成土と考えられる。また、第2号トレンチで確認された第VII層は、遺物が出土しなかったが、中世湊城の内堀跡と考えられる遺構が確認されたこと、地山層であることなどから、近世以前の中世の年代であると考えられる。

また、第3号トレンチに堆積していた第XI層からは、木製品（箸・曲物等）が出土した。

なお、各層の上面から検出された遺構は、上記年代とほぼ対応するものと考えられる。

c 所見

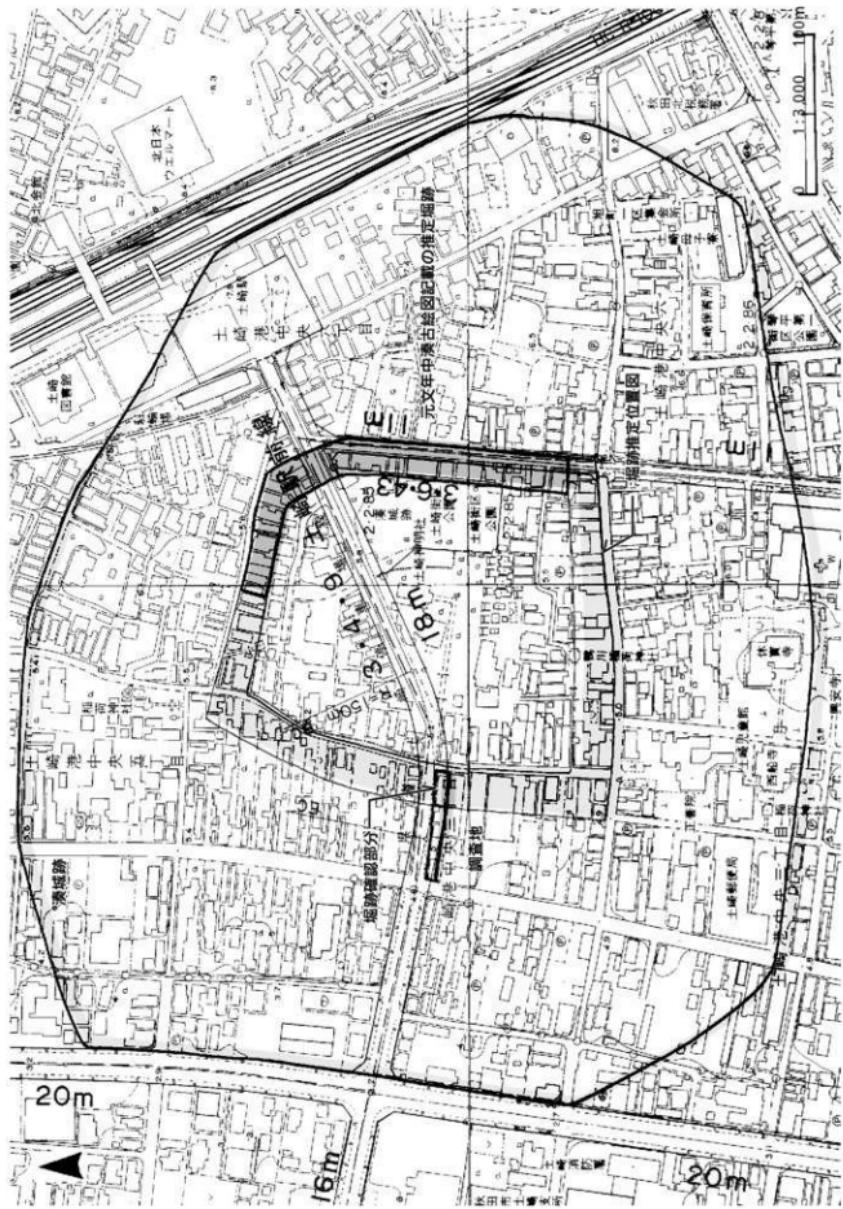
調査地からは、近世を中心とした堆積土・造成土が確認され、遺構・遺物が確認された。

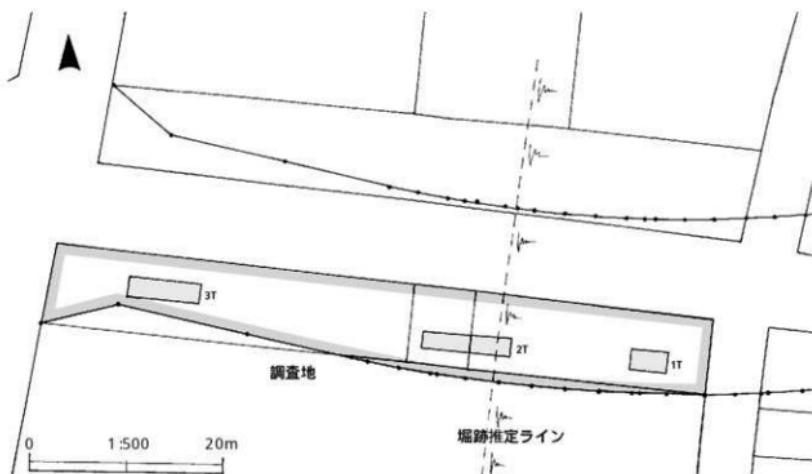
遺構は、少なくとも、第V、VII、X層上面で確認された。各トレンチで確認された第V層、第3号トレンチで確認された第X層の各遺構は、近世土崎湊の城下町に関連するものである。柱穴と考えられるピットの存在から、建物跡が存在したと考えられる。各層の堆積年代から考えると、佐竹氏が湊城に入城する江戸時代初期のものから、18世紀後半に至るまでの近世土崎湊の城下町が良好に保存されていることが判明した。なお、第2号トレンチで確認された杭列1・2は、中世の堀跡を埋め立てるための土留めと考えられる。また、第2号トレンチ第VII層上面で確認された堀跡は、位置的に中世湊城の内堀であると考えられる。元文年中湊古絵図に残されている内堀跡と、今回調査で確認された堀跡の落ち込みラインから推定すると、湊城跡の本丸は、土崎神明社を中心として東西に幅225m程度である。なお、堀跡は、埋土である第VII'層の年代から、17世紀後半に埋め立てられたものと考えられる。第3号トレンチ周辺では、範囲確認調査で可能な掘削限界まで深掘をかけたが、地表面は検出されず、第X層下部より湧水があった。その下部のXI層からは、肥前I期の陶磁器と木製品が出土している。これらのことから、中世湊城では、第3号トレンチ周辺は沢状地形となっていると考えられる。

上記のように、調査地からは中・近世の土崎湊の埋蔵文化財が確認され、協議の結果、平成17年度に発掘調査予定である。

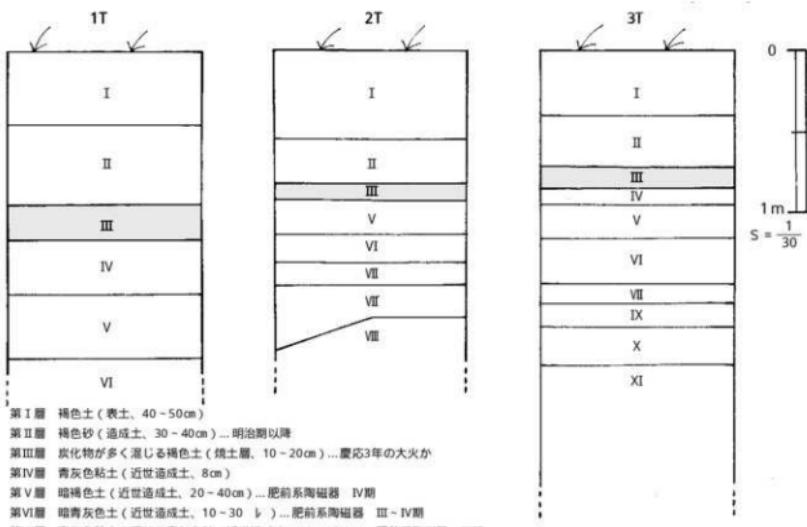
（調査担当：小松・神田・小野）

第8図 湯城跡調査位置図

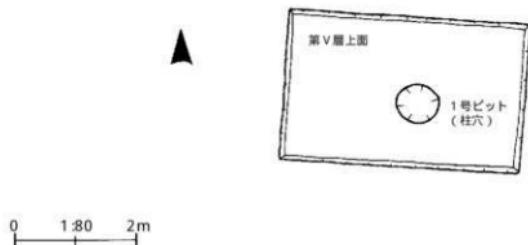




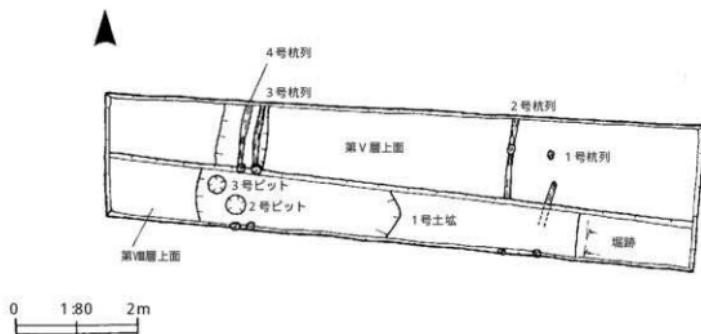
第9図 調査地全体図



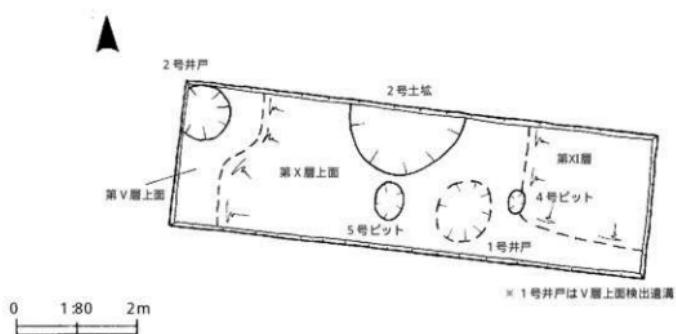
第10図 基本層序柱状図



第11図 第1号トレンチ平面図



第12図 第2号トレンチ平面図



第13図 第3号トレンチ平面図



調査地全景



第1号トレンチ 遺構検出状況(東→)



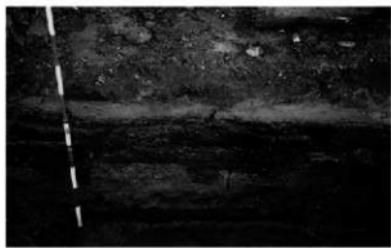
第1号トレンチ 土層状況(北→)



第2号トレンチ 調査状況(西→)



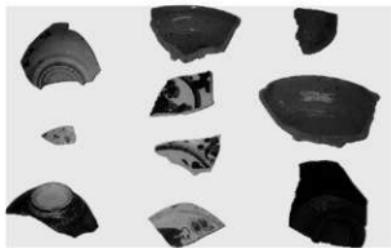
第2号トレンチ 遺構検出状況(北西→)



第2号トレンチ 土層状況(北→)



第3号トレンチ 土層状況(南→)



出土遺物

写真 6

8 川元むつみ町地区宅地造成工事予定地（遺跡存在可能性地）

1 調査地 秋田市川元むつみ町110-1の内

2 調査期日 平成16年11月10日～11日

3 調査面積 262m²（調査対象面積 1662.80m²）

4 起因事業 宅地造成工事

5 調査に至る経緯

三光不動産株式会社は、川元むつみ町に宅地造成工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成16年10月28日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6 立地と現況

調査地は秋田市の中央部、秋田平野を東から西に流れる旭川下流域右岸の川尻微高地上に位置し、標高約6mの地点である。現況は宅地である。川尻微高地上には、下夕野遺跡（平安・中世）、鉄砲所跡（平安・近世）、鍋子山遺跡（縄文）が所在していることから、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7 調査の概要及び結果

調査地は幅2mのトレンチを3本設定し、部分的に拡張を行い、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の基本層序は下記のとおりである。

第Ⅰ層 碎石（表土・造成土、20～50cm）

第Ⅱ層 黄褐色粘土（地山ローム層Ⅰ、20cm）

第Ⅲ層 明黄褐色粘土（地山ローム層Ⅱ、20cm）

第Ⅳ層 黄橙色粘土（地山ローム層Ⅲ、15cm以上）

第Ⅱ～Ⅳ層が、地山ローム層となっている。第1号トレンチ東側と第2号トレンチ南側に部分的に第Ⅰ”層として黒褐色土（旧表土、20cm）、第Ⅰ”層として暗褐色土（漸移層、10cm）が堆積していた。調査地の旧地形は、ローム層が堆積する微高地になっており、北側から南側へ傾斜している。北側と南側の比高差は約80cmである。以前宅地であったときの造成により、南半部は大きく攪乱されており、北側は削平をうけている。

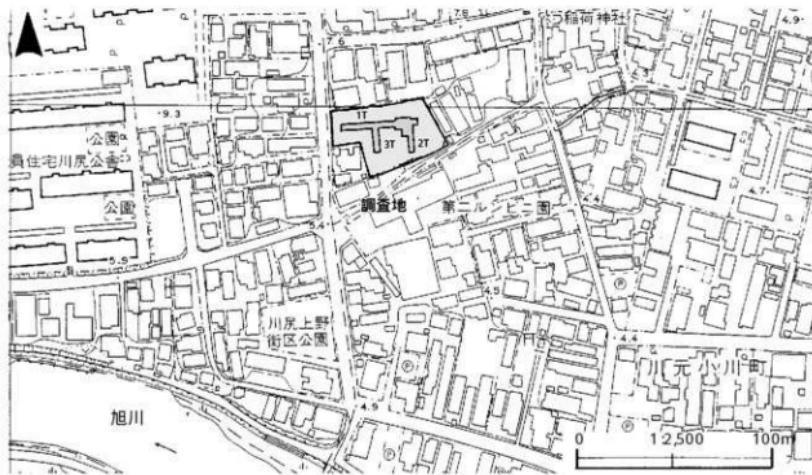
b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

調査地からは遺構・遺物は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：神田・小野）



第14図 川元むつみ町地区宅地造成工事予定地調査位置図



調査地全景（南東→）



第1号トレンチ調査状況（西→）

写真 7

9 下新城地区無線基地局建設工事予定地（遺跡存在可能性地）

- 1 調査地 秋田市下新城岩城字櫻ノ木43番地
- 2 調査期日 平成16年12月14日
- 3 調査面積 22.5m²（調査対象面積 644m²）
- 4 起因事業 無線基地局建設工事
- 5 調査に至る経緯

KDDI株式会社は、下新城岩城字櫻ノ木に無線基地局建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成16年12月3日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、事業予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6 立地と現況

調査地は秋田市の北側、秋田平野北部の上新城丘陵の南端で、標高約31mの地点である。現況は山林である。周辺には、片野Ⅰ遺跡（縄文・平安）、片野Ⅱ遺跡（縄文・平安）、右馬之丞窯跡（奈良・平安）、堂ノ前遺跡（平安）が所在し、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅1.8mのトレンチを3本設定して、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の基本層序は下記のとおりである。

- 第Ⅰ層 暗褐色土（表土、30～50cm）
- 第Ⅱ層 黒褐色土（旧表土、45～80cm）
- 第Ⅲ層 灰褐色土（漸移層、10cm）
- 第Ⅳ層 黄褐色粘土（地山ローム層、10cm以上）

第1号トレンチからは、沢状の地形の痕跡が確認された。また、旧地形は北側と南側の急傾斜地の間の沢状地形であると考えられた。

b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

調査地からは遺構・遺物は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：中川・神田）



第15図 下新城地区無線基地局建設工事予定地調査位置図



調査地全景（東→）



第3号トレンチ調査状況（北東→）

写真 8

10 飯島地区道路建設工事予定地（遺跡存在可能性地）

- 1 調査地 秋田市飯島字芋田地内
- 2 調査期日 平成16年12月21日
- 3 調査面積 10m² (調査対象面積 1,700m²)
- 4 起因事業 道路建設工事
- 5 調査に至る経緯

秋田市建設部道路建設課は、飯島芋田に道路建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成16年12月15日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6 立地と現況

工事予定地は秋田市の北部、秋田平野北部（新城川低地）を東から西に流れる新城川中流域北側の沖積地にあり、標高約10mの地点である。現況は水田である。調査地には芋田遺跡（平安）が隣接し、周辺には、雀島遺跡（奈良・平安）、嶋下り遺跡（縄文・奈良・平安）が島状に点在し、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅1mのトレンチを3本設定して、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の層序は下記のとおりである。

- 第Ⅰ層 褐色土（表土、15cm）
- 第Ⅱ層 青灰色砂質土（造成土、20cm）
- 第Ⅲ層 暗褐色砂質土（造成土、10～20cm）
- 第Ⅳ層 褐灰色粘土（造成土、15～30cm）
- 第Ⅴ層 植物遺体層の混じる褐色土（植物遺体層、10cm以上）

第Ⅱ～Ⅳ層は水田造成の際の造成土である。第2号トレンチでは、第Ⅴ層が褐色砂となっており、南側に隣接する小丘陵の延長の微高地であったと考えられる。第1・3号トレンチでは、旧地形は湿地となっていたと考えられる。

b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

調査地の旧地形は基本的に湿地であり、小丘陵の延長である微高地は確認されたものの、遺構・遺物は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

(調査担当：中川・神田)



第16図 飯島地区道路建設工事予定地調査位置図



調査地全景（東→）



第2号トレンチ調査状況（北東→）

写真 9

11 雄和銅屋地区圃場整備事業予定地（小谷地遺跡）

- 1 調査地 秋田市雄和銅屋相川字小谷地地内
- 2 調査期日 平成17年1月12日～13日
- 3 調査面積 73m²（調査対象面積 177,000m²）
- 4 起因事業 銅屋地区担い手育成基盤整備事業（圃場整備事業）
- 5 調査に至る経緯

秋田県地域振興局農林部農村整備課は、河辺郡雄和町相川字小谷地地内に銅屋地区担い手育成基盤整備事業を予定していることから、秋田県教育委員会と雄和町教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成16年10月1日付けで雄和町教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があったが、未着手のまま平成17年1月11日に市町合併したため、秋田市教育委員会が引き継ぐこととなった。分布調査による現況確認の結果、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6 立地と現況

事業予定地は秋田市の南部、雄物川左岸の河岸段丘上にあり、標高11m前後の地点である。現況は水田である。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅2mのトレンチを15本設定して、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。土層および旧地形により、調査地は大きく4地区に分かれる。以下、各地域ごとに記述する。

[A地区]

A地区は、調査地の北側に位置し、第1～4号トレンチ周辺である。

a 層序

- 第I層 褐色土（表土、15～20cm）
- 第II層 青灰色粘質土（造成土、10cm）
- 第III層 褐色砂質土（自然堆積層、45～90cm）
- 第IV層 褐色粘質土（自然堆積層、90～110cm以上）
- 第V層 黄褐色粘土（地山ローム層、5cm以上）

b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

A地区的旧地形は、雄物川の河川作用による堆積層が厚く堆積し、周辺よりも一段高くなっていたと考えられるが、調査地からは遺構・遺物は発見されず、遺跡は存在しないと判断した。

[B地区]

B地区は、調査地の北西側に位置し、第5～7号トレンチ周辺である。

a 層序

- 第I層 褐色土（表土、20cm）
- 第II層 灰褐色土（造成土、20～40cm）
- 第III層 褐灰色土（造成土、10～15cm）
- 第IV層 青灰色粘土（地山ローム層、20cm以上）

b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

B 地区は、調査地西側に隣接する現在の集落の延長となる微高地となっていたと考えられるが、調査地からは遺構・遺物は発見されず、遺跡は存在しないと判断した。

[C地区]

C 地区は、調査地の中央部に位置し、第8～12号トレンチ周辺である。

a 層序

第I層 褐色土（表土、10～20cm）

第II層 青灰色粘質土（造成土、10～15cm）

第III層 灰褐色土（造成土、15～45cm）

第IV層 褐灰色土（造成土、20～25cm）

第V層 上部に植物遺体が混じる黒褐色粘質土（自然堆積層・泥炭層、35cm以上）

b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

C 地区の旧地形は湿地であり、調査地からは遺構・遺物は発見されず、遺跡は存在しないと判断した。

[D地区]

D 地区は、調査地の南西側に位置し、第13～15号トレンチ周辺である。

a 層序

第I層 褐色土（表土、10～20cm）

第II層 碾の混じる灰褐色土（造成土、15～30cm）

第III層 植物遺体の混じる褐色土（自然堆積層、20～30cm）

第IV層 植物遺体および青灰色粘土ブロックの混じる褐色土（自然堆積層、20～40cm）

第V層 青灰色粘土の混じる褐色土（漸移層、5～20cm）

第VI層 青灰色粘土（地山ローム層、5cm以上）

b 検出遺構と出土遺物

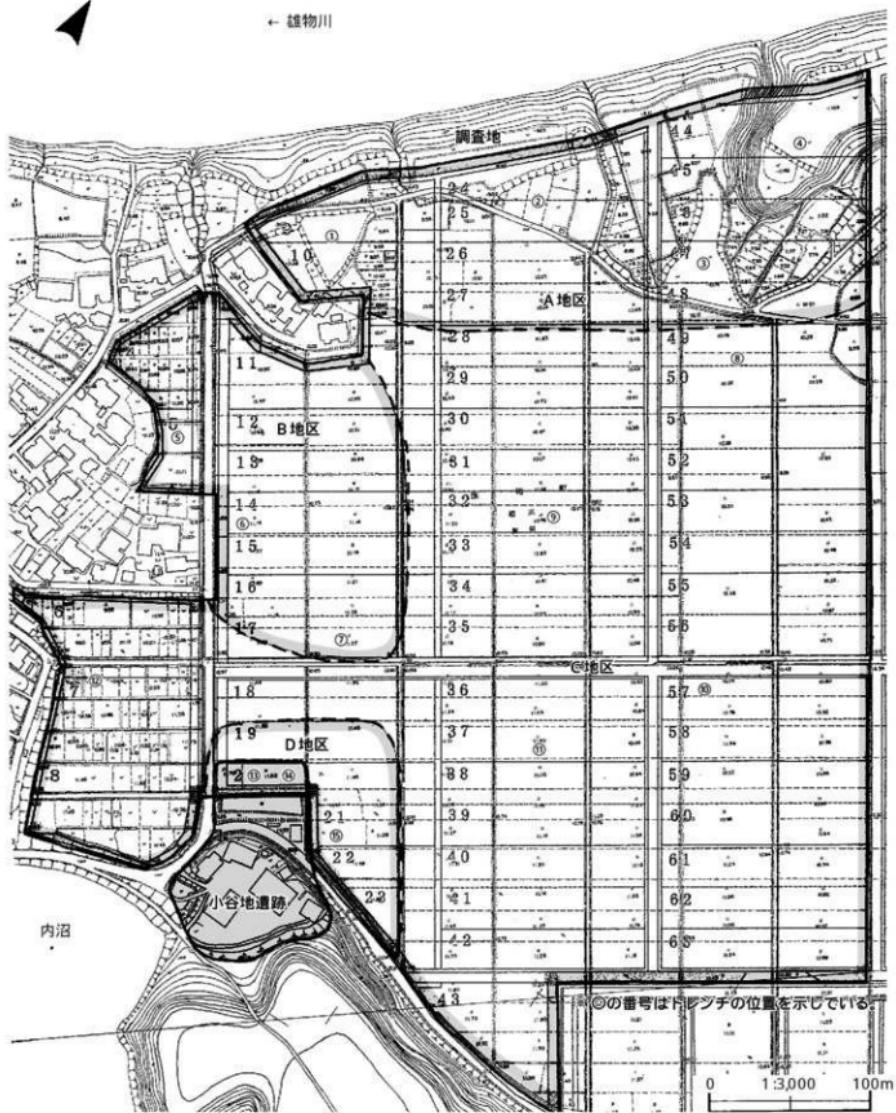
遺構は検出されなかったが、第13・14号トレンチにおいて、第V層より赤褐色土器片（壺・壺）・木製品（箸）が発見された。

c 所見

D 地区の旧地形は、基本的に湿地であったと考えられるが、調査地南側に隣接する丘陵の延長となる微高地が認められた。また、第V層より古代の遺物が発見された。遺物の出土状況および堆積層より、第V層はプライマリーなものではなく、周辺からの流れ込みの可能性が高いが、第13～14号トレンチ周辺および南側の丘陵部にかけて遺跡が存在すると考えられる。この部分については、周辺に遺跡が存在しないことから、新発見の遺跡「小谷地遺跡」と判断した。

調査結果に基づき、事業者と埋蔵文化財保護に関する協議を行い、小谷地遺跡が確認された範囲について、盛土保存することとした。

（調査担当：西谷・中川・神田・小野）



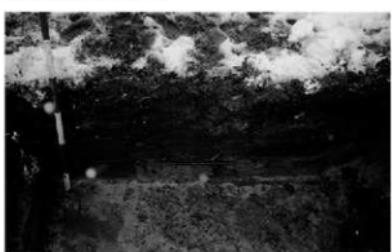
第17図 雄和銅屋地区圃場整備事業予定地調査位置図



調査地全景（南西→）



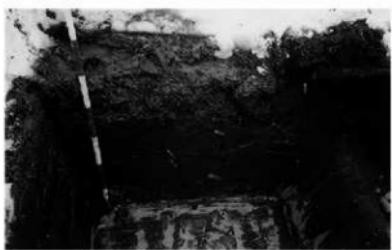
A地区 第3号トレンチ調査状況（南→）



B地区 第6号トレンチ調査状況（西→）



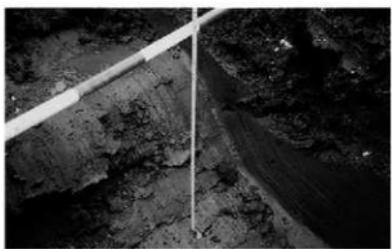
C地区 第9号トレンチ調査状況（南→）



D地区 第13号トレンチ調査状況（北→）



第13号トレンチ遺物出土状況①



第13号トレンチ遺物出土状況②



新発見「小谷地遺跡」遺景

写真10

12 島下り遺跡（下新城地区道路建設工事予定地）

- 1 調査地 秋田市下新城笠岡字島下り地内
- 2 調査期日 平成17年1月17日
- 3 調査面積 42m²（調査対象面積 1,125.73m²）
- 4 起因事業 道路建設工事
- 5 調査に至る経緯

秋田市建設部道路建設課は、島下り遺跡が所在する下新城笠岡字島下り地内に道路建設工事を予定していることから事前協議があり、平成16年5月31日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。これを受けた秋田市教育委員会は、分布調査による現況確認と試掘による範囲確認調査を実施した。

6 立地と現況

工事予定地は秋田市の北部、秋田平野北部（新城川低地）を東から西に流れる新城川中流域北側の沖積地に位置する島下り遺跡（縄文・奈良・平安）内で、標高11mの地点である。現況は原野である。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅1.5～2mのトレンチを5本設定して、バックホーおよび手掘りによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の基本層序は下記のとおりである。

- 第Ⅰ層 極暗褐色砂質土（表土、10～30cm）
- 第Ⅱ層 暗褐色砂（漸移層、10～20cm）
- 第Ⅲ層 黄褐色砂（地山飛砂層）

第3号トレンチにおいては、第Ⅱ層が暗褐色砂質土（造成土、35cm）となっており、その下部に第Ⅱ層として黄褐色粘土ブロックが混じる灰褐色粘質土（造成土、25cm）が確認された。また、第Ⅲ層は、浅黄褐色砂質土となっており、削平を受けていると考えられた。

b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

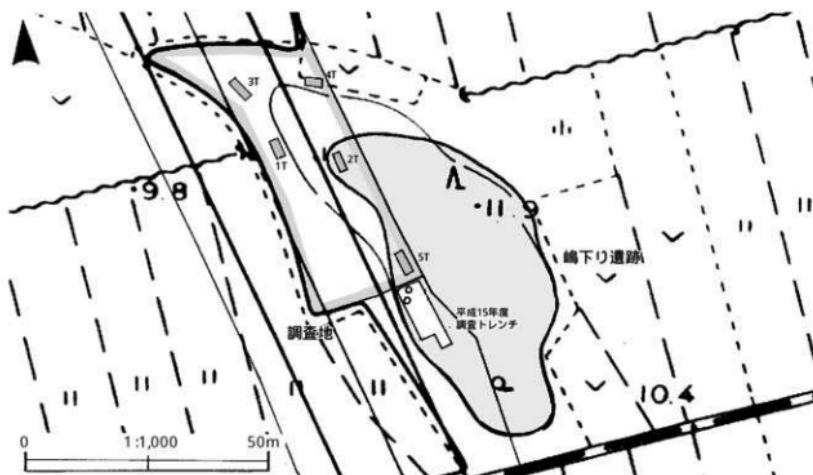
当該地においては、平成15年度の島下り遺跡南西側での調査で、土坑が2基発見された。しかし、今回の範囲確認調査では、遺構・遺物が全く検出されなかつことから、遺跡の主要部は工事予定地外と考えられる。なお、平成15年度の調査で検出された土坑2基については、完掘し記録化を行い、既に報告済みである（秋田市教育委員会 2004）。

以上のことから、今回の範囲確認調査をふまえ、工事施工については、立会調査を条件に実施して差し支えないと判断した。

（調査担当：中川・神田）

参考文献

秋田市教育委員会 2004 『市内遺跡確認調査報告書』



第18図 崎下り遺跡調査位置図



調査地全景（北西→）



第2号トレンチ調査状況（南→）

写真11

13 山内地区無線基地局建設工事予定地（遺跡存在可能性地）

- 1 調査地 秋田市山内字丸木橋167-4
- 2 調査期日 平成17年1月18日
- 3 調査面積 18m²（調査対象面積 150m²）
- 4 起因事業 無線基地局建設工事
- 5 調査に至る経緯

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ東北は、山内字丸木橋に無線基地局建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成17年1月11日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6 立地と現況

工事予定地は秋田市の東部、旭川上流域左岸の河岸段丘上で、標高約78mの地点である。現況は、荒地である。周辺には、丸木橋Ⅰ遺跡（縄文）、丸木橋Ⅱ遺跡（縄文）、丸木橋Ⅲ遺跡（縄文）、郷土館（中世）、市王寺遺跡（縄文）が所在し、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7 調査の概要及び結果

調査地に幅1.5mのトレンチを2本設定して、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

a 層序

調査地の基本層序は下記のとおりである。

第Ⅰ層 極暗褐色土（表土、10~20cm）

第Ⅱ層 暗褐色土（漸移層、15cm）

第Ⅲ層 積混じりの黄褐色粘土（地山ローム層、35cm以上）

第2号トレントでは、Ⅰ層の上に、暗褐色土（造成土、20cm）、積混じりの暗褐色土（造成土、25cm）が堆積している。これらは、調査地東側の秋田東病院造成時に押されて堆積したものと考えられる。

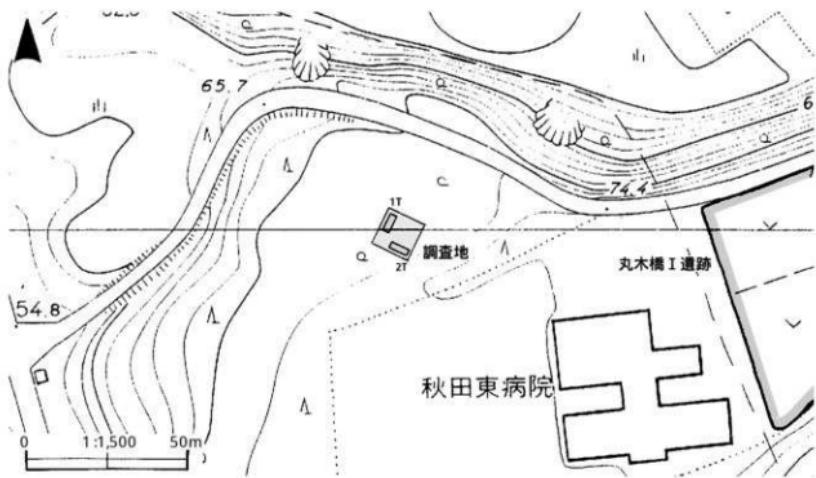
b 検出遺構と出土遺物

遺構・遺物の発見はなかった。

c 所見

調査地の地形は河岸段丘であるが、遺構・遺物は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：中川・神田）



第19図 山内地区無線基地局建設工事調査位置図

調査地全景（南→）



第2号トレンチ調査状況（東→）



写真12

第3章 拙

1 平成11年度 熊野田遺跡範囲確認調査に伴う出土遺物報告

1 調査地 秋田市下新城長岡・青崎地内

2 調査日 平成11年11月8日～10日

3 起因事業 下新城西部地区担い手育成基盤整備事業

4 調査に至る経緯及び調査結果

秋田県秋田農林事務所は、下新城長岡・青崎地内に担い手育成基盤整備事業として大規模な圃場整備事業を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成11年7月21日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

試掘調査はトレーナー調査によって行い、調査の結果、熊野田遺跡（縄文・平安）の東側で構造の発見はなかったものの、古代・中世遺物が出土し、遺跡の広がりが確認された。そこで、原因者と埋蔵文化財保護について協議した結果、工事を掘削から盛土に変更し、遺跡を保護することになった。

5 出土遺物について

調査の結果、須恵器・土師器・赤褐色土器・珠洲系中世陶器・青磁・鉄滓・木製品等が多量に出土した。本報告では、中心となる古代関係の遺物について行う（表1、第20図）。

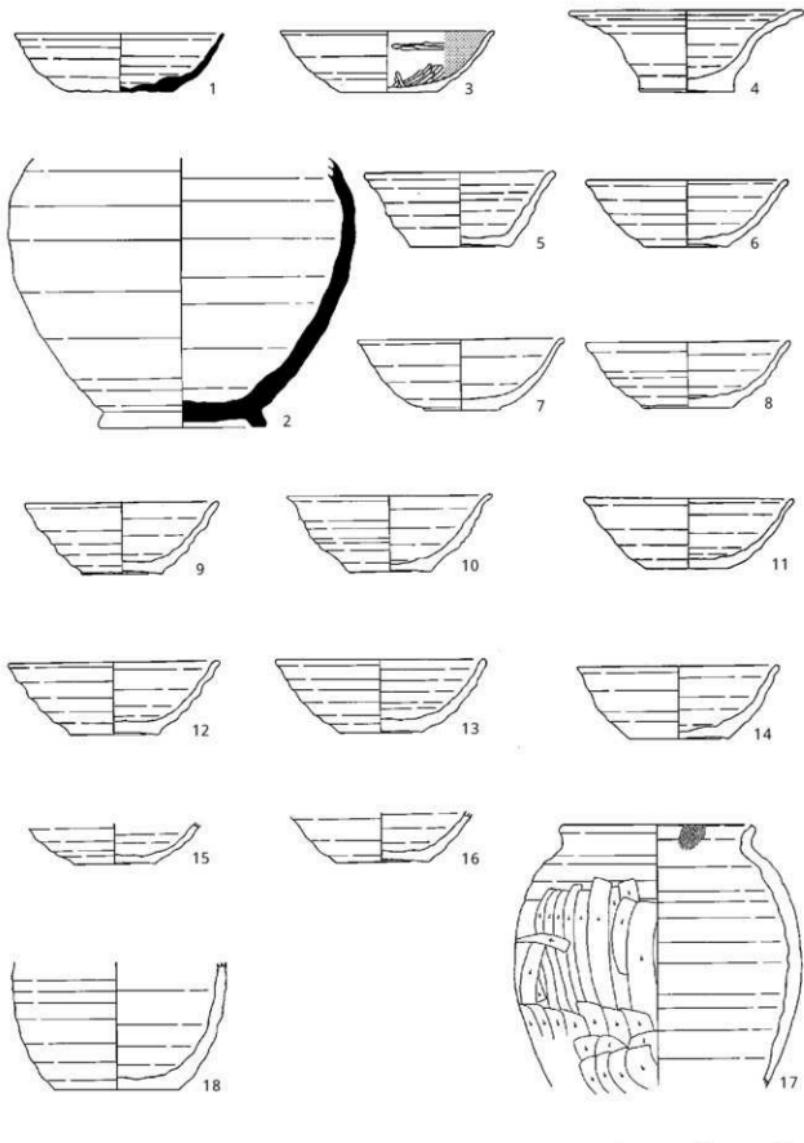
出土遺物の年代は、底部ヘラ切りの須恵器壺、底径の小さい赤褐色土器壺等から判断して、9世紀第2四半期から10世紀前葉と考えられる。なお、南西近接地に、9世紀代を中心とした掘立柱建物跡等が発見されている長岡遺跡が所在し、本遺跡と密接に関係するものと考えられる。

表1 熊野田遺跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	底径指數 (底径/口径)	高径指數 (高径/口径×100)	外傾度 (°)	備考
1	須恵器	壺	12.9	6.5	3.6	0.504	27.9	30	底部回転ヘラ切り、軽いナデ調整
2	須恵器	長頸瓶	—	10.5	—	—	—	—	底部回転糸切り後、高台部製作
3	土師器	壺	12.0	5.9	3.8	0.492	31.7	37	底部回転糸切り、無調整
4	赤褐色土器	壺	14.4	5.7	5.0	0.396	34.7	50	底部回転糸切り、無調整、体部上半から口縁部が外反する。
5	赤褐色土器	壺	11.8	6.2	4.5	0.525	38.1	36	底部回転糸切り、無調整
6	赤褐色土器	壺	12.5	5.2	4.1	0.416	32.8	35	底部回転糸切り、無調整
7	赤褐色土器	壺	12.8	4.6	4.5	0.359	35.2	35	底部回転糸切り、無調整
8	赤褐色土器	壺	12.6	5.3	4.1	0.421	32.5	33	底部回転糸切り、無調整
9	赤褐色土器	壺	11.8	5.0	4.4	0.424	37.3	34	底部回転糸切り、無調整
10	赤褐色土器	壺	12.7	4.9	4.9	0.385	38.6	35	底部回転糸切り、無調整
11	赤褐色土器	壺	12.5	5.3	4.4	0.424	35.2	34	底部回転糸切り、無調整
12	赤褐色土器	壺	12.8	5.5	4.5	0.430	35.2	34	底部回転糸切り、無調整、切り離しや難。
13	赤褐色土器	壺	13.1	5.1	4.5	0.389	34.4	33	底部回転糸切り、無調整
14	赤褐色土器	壺	12.4	6.0	4.5	0.483	36.3	28	底部回転糸切り、無調整
15	赤褐色土器	壺	—	5.0	—	—	—	—	底部回転糸切り、無調整
16	赤褐色土器	壺	—	5.7	—	—	—	—	底部回転糸切り、無調整
17	赤褐色土器	甕	11.6	—	—	—	—	—	ロクロ成形後、体部上半から下半にかけて削り調整を行う。
18	赤褐色土器	甕	—	7.6	—	—	—	—	底部回転糸切り、無調整

註：古代の土器の名称・分類については、秋田市教育委員会『秋田城跡調査概報』1972～2003に基づいた。また、各法量の

計測方法については、岩見誠夫・船木義勝 1985 「秋田県の須恵器および須恵器窯の編年」『秋大史学』32にに基づいた。



第20図 熊野田遺跡出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しないいせき かくにんちょうさ ほうこくしょ						
書名	市内遺跡確認調査報告書						
副書名							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	神田和彦						
編集機関	秋田市教育委員会						
所在地	〒010-0951 秋田県秋田市山王二丁目1番53号 TEL 018-866-2246						
発行年月日	2005年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
	市町村	遺跡番号	° °'	° °"			
開発予定地 下新城中野字前谷地	05201	—	39度 47分 55秒	140度 4分 10秒	20040422	59	道路建設工事
開発予定地 下新城笠岡字前谷地	05201	—	39度 47分 42秒	140度 4分 25秒	20040525	36	無線基地局建設工事
開発予定地 金足片田字横閑	05201	—	39度 48分 48秒	140度 5分 25秒	20040603	84	店舗建設工事
走崎 下北手松崎字走崎	05201	257	39度 43分 15秒	140度 10分 5秒	20040803 20040805	33	道路建設工事
開発予定地 寺内高野	05201	—	39度 44分 28秒	140度 5分 35秒	20040910	26	無線基地局建設工事
開発予定地 寺内後城	05201	—	39度 44分 20秒	140度 4分 28秒	20040921	30	無線基地局建設工事
渕城跡 上崎港中央三丁目	05201	165	39度 45分 10秒	140度 4分 32秒	20041108 20041109	46	道路建設工事
開発予定地 川元むつみ町	05201	—	39度 42分 18秒	140度 6分 25秒	20041110 20041111	262	宅地造成工事
開発予定地 下新城岩城字機ノ木	05201	—	39度 47分 10秒	140度 6分 25秒	20041214	23	無線基地局建設工事
開発予定地 飯島字芋田	05201	—	39度 47分 20秒	141度 4分 10秒	20041221	10	道路建設工事
小谷地 雄和銅屋相川字小谷地	05201	503	39度 35分 0秒	140度 11分 20秒	20050112 20050113	73	圃場整備事業
嶋下り 下新城字嶋下り	05201	108	39度 47分 35秒	141度 4分 20秒	20050117	42	道路建設工事
開発予定地 山内字丸木橋	05201	—	39度 46分 20秒	140度 11分 18秒	20050118	18	無線基地局建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
渕城跡	城館跡	中世・近世	塙跡、柱穴、土坑、溝	陶磁器、木製品			
小谷地	集落跡	平安		赤褐色土器、木製品			

秋田市
市内遺跡確認調査報告書

印刷・発行 平成17年3月
発 行 秋田市教育委員会
〒010-0951 秋田市山王二丁目1番53号
山王21ビル内
TEL 018-866-2246 FAX 018-866-2252
印 刷 秋田中央印刷株式会社
